

日本天文学会 2024年 春季年会プログラム

期 日 2024年3月11日(月)～3月15日(金)
場 所 東京大学本郷キャンパス／オンライン
電 話 090-4387-6893(学会事務局) <使用期間 2024年3月11日(月)～3月15日(金)>
E-Mail nenkai-committee@asj.or.jp(年会実行委員会)

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
3月8日 (金)						記者会見			理事会			
3月9日 (土)				代議員総会				公開講演会				
3月11日 (月)	A		受付	Z1. PFS 銀河		昼 休 み 12:10 - 13:30	Z1. PFS 銀河		ポスター	会員全体集会 16:30 - 18:00	天文教育 フォーラム 18:00 - 19:30	
	B			Z2. 機械学習天文学			Z2. 機械学習天文学					
	C			Z3. MeVガンマ			Z3. MeVガンマ					
3月12日 (火)	A		受付	Z1. PFS 銀河		昼 休 み 12:10 - 13:30	ポスター	受賞記念講演 14:30 - 16:15		特別 セッション		
	B			Z2. 機械学習天文学								
ジュニアセッション（詳細は https://www.asj.or.jp/jsession/ にて）												
3月13日 (水)	D				昼 休 み 12:10 - 13:30	P3. 惑星系			ポスター 16:00 - 17:00			
	E					U. 宇宙論						
	F					T. 銀河団						
	G			R. 銀河		R. 銀河						
	H			S. 活動銀河核		S. 活動銀河核						
	I			V3. 観測機器(X線・γ線)		V3. 観測機器(X線・γ線)						
	J			N. 恒星・恒星進化		N. 恒星・恒星進化						
3月14日 (木)	D			P1. 星形成	昼 休 み 12:10 - 13:30	P1. 星形成			ポスター 16:00 - 17:00			
	E			U. 宇宙論		V1. 観測機器 (電波)						
	F			Y. 教育・広報・他		Y. 教育・広報・他						
	G			W. コンパクト天体		W. コンパクト天体						
	H			X. 銀河形成・進化		X. 銀河形成・進化						
	I			V3. 観測機器(X線・γ線)		V2. 観測機器(光赤・重)						
	J			M. 太陽		M. 太陽						
3月15日 (金)	D			P1.星形成/P2.原始惑星系円盤	昼 休 み 12:10 - 13:30	P2. 原始惑星系円盤			ポスター 16:00 - 17:00			
	E			V1. 観測機器 (電波)		V1. 観測機器 (電波)						
	F			Q. 星間現象		Q. 星間現象						
	G			W. コンパクト天体		W. コンパクト天体						
	H			X. 銀河形成・進化		X. 銀河形成・進化						
	I			V2. 観測機器(光赤・重)		V2. 観測機器(光赤・重)						
	J			M. 太陽		M. 太陽						
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

- ・現地の受付は9:30から開始します。
- ・セッションの開催時間は午前の部 10:00～12:10、午後の部 13:30～15:40 です。
- ・3月13日(水)～3月15日(金)はフルオンライン開催です。

【開催場所について】

- ・3月11日(月)～3月12日(火)は東京大学 本郷キャンパスで開催します。会場は下記の通りです。

A 会場	: 小 柴 ホール(理学部1号館中央棟2F)	受 付	: 小柴ホール 2F ロビー
B 会場	: 1220 講義室(理学部4号館2F)	展示コーナー	: 小柴ホール 2F ロビー
C 会場	: NSSOL 講義室(理学部1号館東棟2F)	ポスター	: 小柴ホール 2F ロビー/オンライン公開
※定員が超過した場合は、近くの予備室をご利用ください			

◎講演数

講演数：合計 492

(口頭講演 (a)：409、ポスター講演 (b)：68、ポスター講演 (c)：15)

◎参加申込について (参加希望者は、必ず事前に参加申込をしてください)

2016 年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られております。

○参加費用

	会 員	非 会 員
参 加 費	正会員学生:2,000 円 (不課税) 正会員一般:5,000 円 (不課税) 準 会 員:5,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
講演登録費	2,000 円 (不課税) (1 講演につき) 但し事前支払がない場合は、会員 3,000 円 / 非会員 6,000 円	5,000 円 (消費税込み・企画セッション)
年会予稿集	2,000 円 (消費税込み) ※購入希望者のみ	

○参加申込受付場所：学会ホームページ (<https://www.asj.or.jp/>)

○参加申込受付期間：2024 年 1 月 9 日正午～2 月 6 日正午

※直前参加申込受付期間：3 月 1 日正午～3 月 15 日正午 (会員限定、オンライン参加のみ)

※講演者の方も講演登録費支払期間に参加申込・参加費支払が必要です

※原則として講演登録費・参加費の返金はいたしません

◎講演に関する注意

- 3 月 11 日 (月)～3 月 12 日 (火) の口頭発表は現地 3 会場で、3 月 13 日 (水)～3 月 15 日 (金) の口頭発表はオンライン 7 会場で並行して行います。口頭講演 (添字 a) は、口頭発表 9 分、質疑応答 3 分です。ポスター講演 (添字 b) は、口頭発表 3 分、3 講演で 12 分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

- ポスター (添字 b、c) はオンライン上で公開します。企画セッションのポスターは現地での掲示も行います。オンライン公開用にポスターファイルの提出をお願いいたします。提出の締切は 3 月 8 日 (金) 正午です。各ポスター講演に Slack チャンネルをご用意しますので、質疑応答にご活用ください。(添字 a の講演者にも Slack チャンネルをご用意いたします)
- 企画セッションの口頭講演者 (添字 a、b、r) は原則として現地会場で、通常セッションの口頭講演者 (添字 a、b) はオンラインで発表していただきます。セッション 開始 5 分前から座長が講演方法の説明をいたします。講演者にご参加ください。また、口頭講演は原則としてご自身の PC を用いて講演いただきます。万一のトラブルに備えて、PDF 形式の講演ファイルもご用意ください。講演方法に関する最新の情報は、ホームページで必ずご確認ください。
- オンライン聴講者は、セッション開始時刻の 5 分前からアクセスいただけます。また入室の際には、下記の命名規則に従って「参加者名」を設定してください。

参加種別	「参加者名」の命名規則	例
視聴者	「氏名」+「(所属)」	天文花子 (天文大学)

- 講演の実施方法の詳細は、学会ホームページに掲載いたします。事前に講演方法についてよく確認いただいた上で準備を進めていただくようお願いいたします。オンラインで参加される方は、Zoom の操作手順に関する理解を深めていただくようお願いいたします。
- 受信画像や発表資料の保存 (キャプチャを含む)、録音や配布は固くお断りします。

◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
3月8日(金)	13:00 ～ 14:30	オンライン	記者会見
3月9日(土)	13:30 ～ 16:00	A 会場 / オンライン	公開講演会
3月11日(月)	16:30 ～ 18:00	オンライン	会員全体集会
3月11日(月)	18:00 ～ 19:30	C 会場 / オンライン	天文教育フォーラム
3月12日(火)	14:30 ～ 16:15	A 会場 / オンライン	受賞記念講演（林忠四郎賞・研究奨励賞）
3月12日(火)	16:30 ～ 17:30	A 会場 / オンライン	特別セッション 「TAO の科学観測開始に向けて」

◎会合一覧表

※今回、通常の会合は募集しておりません

月 日	時 間	会 場	会 合 名	参加可否※
3月8日(金)	15:30 ～ 16:30	オンライン	理事会	D
3月9日(土)	10:30 ～ 12:00	オンライン	代議員総会	D

※年会参加者の参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 年会参加者なら誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 年会参加者で興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けの会合だが年会参加者なら特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした会合で非公開である

正会員展示

◎「アルマーの冒険」で電波天文学の原理と歴史を自作しよう！ー連載・24 春ー

日 時：2024 年 3 月 11 日（月）～ 3 月 12 日（火）

場 所：A 会場（小柴ホール） ロビー

概 要： 電波天文広報まんが「アルマーの冒険」は、電波天文学の世界を紹介するアウトリーチコンテンツです。国立天文台の広報機関誌『国立天文台ニュース』誌上で 2011 年から掲載を開始し、2024 年現在も継続中の連載記事です（これまでに 11 話分を掲載）。親しみやすいストーリーまんがを下敷きに、自作アンテナによるさまざまな天体の電波を実地に観測して（これまでのターゲットは太陽、流星、木星など）、電波天文学の原理を学びその歴史を追体験する構成で、天文台のみならず、全国の研究教育機関による最新の研究成果も逐次紹介しています。2023 年秋の年会でコミケ風の展示をして（一部で？笑）好評を博しましたので、2024 年春の年会ではさらにパワーアップして出展します。とくにジュニアセッションに参加する学生・生徒のみなさん、技術革新によって安価かつ平易に電波天文学の世界を実体験できるようになった「これから」を、アルマーといっしょに冒険してみませんか。ブースにてお待ちしております。

世 話 人：高田裕行（国立天文台）
山岡均（国立天文台）
唐崎健嗣（合同会社プラネタリウムワークス）

◎天文教育フォーラム：「天文教育・普及にかかわる知見をどのように共有するか」

日 時：2024 年 3 月 11 日（月）18：00～19：30

場 所：C 会場 (NSSOL 講義室)/オンライン(要申込。天文教育フォーラムのみ参加の場合、参加費は無料)

概 要： 日本は天文学の教育や普及において先進的な取り組みをしている国のひとつであるが、その成果や知見をコミュニティとして共有し、次世代や世界に繋いでいく仕組み作りにおいては発展途上である。研究者や教育関係者が行う活動の報告や研究の成果については、天文月報や年会の「天文教育・広報普及・その他」セッションなどの場を通じて発表ができるが、天文学を専門としない教育・普及活動の担い手にとっては、なじみがある場とは言いがたい。

また、近年、教育・普及活動の担い手としての重要性を増している一般市民にとっても、参加しやすい場を設けることが必要である。幅広い活動を網羅し、その知見をコミュニティとして蓄積していくことは、社会によって支えられている天文学の持続的な発展のためには、必要不可欠なことである。

天文教育・普及に関する知を共有していくためには、いったいどのような仕組みとなっていることが望ましいだろうか。本フォーラムでは、現在どのような状況にあるのかを俯瞰した上で、課題が何であるのかを議論し、これからの展望を共有したい。

話題提供：(1)「天文教育の知見共有についての経験・私見」 下井倉ともみ（大妻女子大学）
(2)「天文教育普及で繋がりました、残しました」 松本直記（慶応高校）

実行委員：鴈野重之、高梨直紘、日下部展彦、松岡義一

主 催：公益社団法人 日本天文学会 / 一般社団法人 日本天文教育普及研究会

◎特別セッション：「TAO の科学観測開始に向けて」

日 時：2024 年 3 月 12 日（火）16：30～17：30

場 所：A 会場 (小柴ホール)/オンライン

概 要： 東京大学アタカマ天文台（The University of Tokyo Atacama Observatory; TAO）は、南米チリ共和国北部のアタカマ砂漠にそびえる高峰、チャナントール山頂（標高 5,640m）に位置する世界で最も標高の高い天文台で、高い晴天率や乾燥した大気など世界最高の観測環境にあり、高い赤外線透過率を誇ります。

現在、東京大学天文学教育研究センターでは、口径 6.5m の光赤外線望遠鏡である TAO 望遠鏡の建設を進めており、2024 年度中の科学観測・共同利用開始を目指しています。

そこで本特別セッションでは、TAO 望遠鏡と観測装置の性能や公募観測の枠組みについて、学会員の皆さまにお知らせするとともに、TAO 望遠鏡で期待されるサイエンスについての講演を実施する予定です。

プログラム：

1. TAO 望遠鏡と観測装置の性能
2. 公募観測の枠組み
3. TAO 望遠鏡で期待されるサイエンス

「赤外線観測を用いた銀河研究と TAO への期待」 稲見華恵（広島大学）

「TAO が明らかにする太陽系小天体形成と軌道・熱進化」 大坪貴文（産業医科大学）

世 話 人：宮田隆志、柏川伸成、土居守、江草実実（東京大学）

◎日本天文学会公開講演会

日 時：2024 年 3 月 9 日（土）13：30～16：00（開場 13:00）

形 式：対面とオンライン配信

場 所：【対面】東京大学 理学部 1 号館 中央棟 2 階 小柴ホール

住所：東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学 本郷キャンパス

【オンライン】東京大学理学系研究科・理学部 YouTube チャンネルでのライブ配信

対 象：中学生以上・一般向け

テ ー マ：「大型望遠鏡で迫る宇宙の謎」

宇宙の謎を解き明かしたいという好奇心と探求心は、人類の自然に対する理解を深める原動力となるとともに、そのために用いられる最先端科学技術は人々の日常生活へと還元されてきました。約 400 年前、ガリレオ・ガリレイが自作の望遠鏡を用いて以降、宇宙を観測する手段はより高度に、より大型になってきています。さらには近年、人類は重力波という新たな観測手段も手に入れています。本講演会では、可視光・赤外光で宇宙を観測するすばる望遠鏡、重力波で宇宙を観測する KAGRA（かぐら）という 2 つの大型観測装置を中心に、宇宙の誕生と進化、そしてそこで繰り広げられるブラックホールや中性子星の合体といった天体現象についての最新の研究成果を紹介します。

講師・タイトル：下記をご参照ください。

参 加 費：無料

定 員：【対面】150 名（事前申込制）

【オンライン】申込不要です。ライブ配信を自由に視聴していただけます。

<講演内容の紹介>

講演 1：「重力波天文学と KAGRA」

講師：梶田隆章（東京大学 卓越教授、東京大学宇宙線研究所 教授）

近年、連星ブラックホールや連星中性子星の合体現象などを重力波で調べることが可能となりました。本講演では重力波天文学と呼ばれる新しい研究分野を紹介します。日本でも KAGRA プロジェクトで重力波の観測を目指した取り組みが進められてきました。特に KAGRA についても現状と今後目指す科学の方向性などを紹介します。

講演 2：「膨張する宇宙をすばる望遠鏡で検証する！」

講師：高田昌広（東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 教授）

約 138 億年の膨張する宇宙の歴史は、インフレーションと呼ばれる宇宙の始まり、ダークマター、ダークエネルギーを仮定した約 5 個程度のパラメータ（物理量）の宇宙の標準理論で記述され、様々な宇宙の観測データを驚くほど美しく説明することに成功しています。日本の口径 8.2m のすばる望遠鏡から得られた約 2500 万個の銀河の画像データを用い、この宇宙の標準理論を徹底的に検証しました。このすばる研究の成果を紹介します。

主 催：公益社団法人 日本天文学会

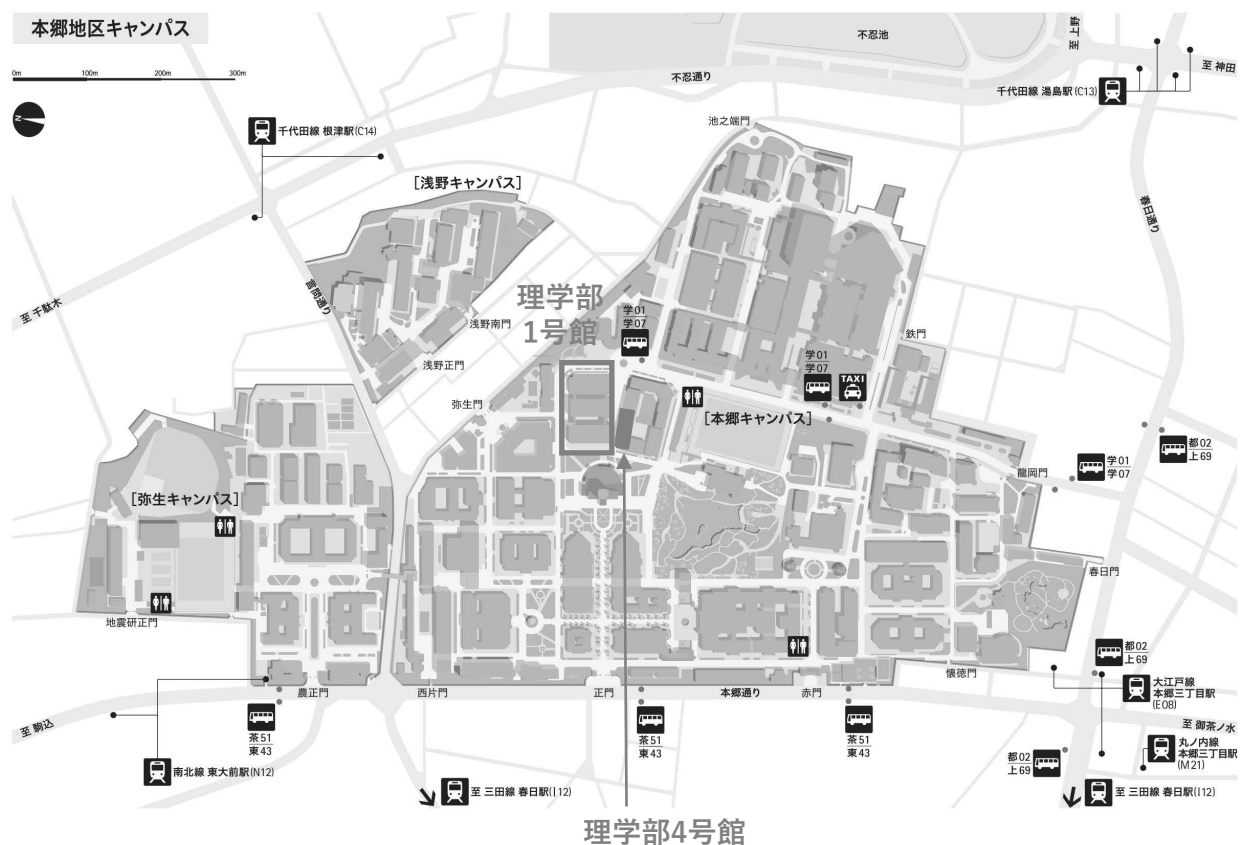
※参加申込方法、及び最新のプログラムにつきましては学会ホームページ (<https://www.asj.or.jp/>) をご覧ください。

交通のご案内

最寄り駅と所要時間

東京メトロ	丸の内線/大江戸線 本郷三丁目駅 より徒歩10分 千代田線 根津駅 より徒歩10分 南北線 東大前駅 より徒歩8分
J R	御茶ノ水駅 より都営バス 茶07 東大構内行き 約10分 上野駅 より都営バス 上01 東大構内行き 約10分

東京大学 本郷キャンパスマップ



令和5(2023)年4月版

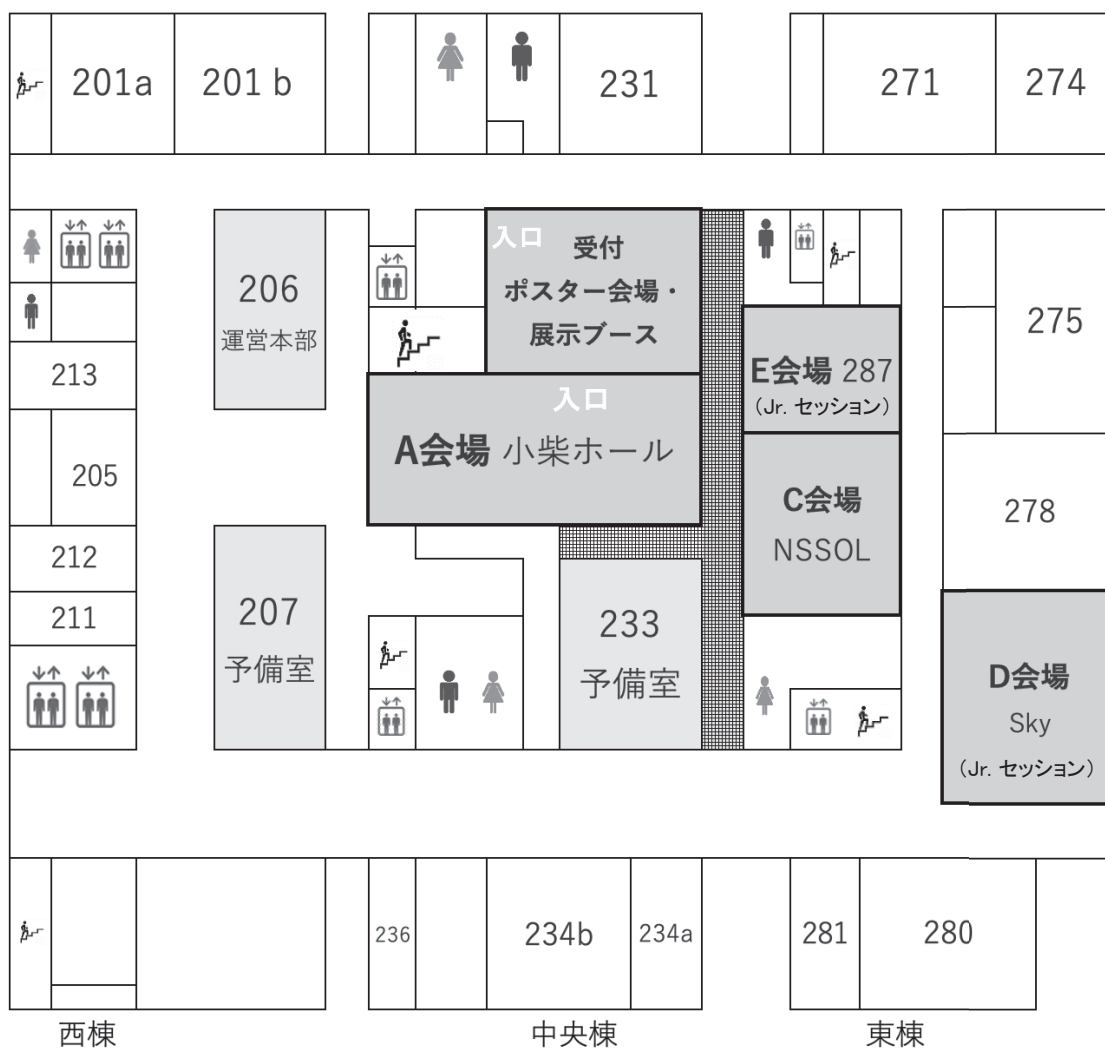
会場周辺詳細



- ◎ 小柴ホール2階ロビーにてQRコード受付後、参加証を必ず受け取ってください。
- ◎ 構内での飲食は、決められた場所をお願いいたします。
- ◎ セッション会場が混雑している場合は、予備室をご利用ください。

セッション会場のご案内

理学部1号館 2階



理学部4号館 2階

